

わだつみのこえ 戦後80年の集い 発言メモ

日時：令和7年（2025年）8月23日 13:00～16:00

場所：深志教育会館

◆ 開会あいさつ （塩野英雄代表）

本日はお越しいただきありがとうございます。実は私の家は上原良司さんの家の近くでいろいろお世話になっていた。これから時代に何かを伝えていきたいという思いで代表を引き受けた。若い世代につないでいきたい。男性・女性かかわらず関わってもらいたい、中学生・高校生に戦争や平和について考えてもらいたいと思い、高校生の研究発表を中心に活動をしてきて、本日はその発表を中心に行う。

6月1日に市内の戦蹟巡りを行い、8月9日に上原良司の生家や池田町の記念碑等の訪問を行った。私たちの撒いた種が今後繋がっていってもらいたいと願う。

◆ 基調講演 （戦跡カメラマン 安島太佳由氏）

安島氏の写真集『上原良司と特攻隊』の写真を見ながら解説を行った。

表紙の写真が上原良司を象徴的に写しており、かっこいい写真だ。特攻作戦・特攻隊・学徒出陣について簡単に説明する。兄弟三人の幼少期の写真は平和な時代のいい家族の写真だ。写真がたくさん残っているが、カメラを持っていたこと自体凄いことだ。5人兄弟姉妹が出征している父親に送るために撮った二枚の写真が印象的だ。

学徒出陣からの良司の心の変化、恋人の死、兄の死、特攻までの経緯を解説し、良司が自由主義者の考え方を持つ経緯を述べる。

◆ 高校生の探究活動の発表

（1）松本第一高校 （赤羽 鮎澤 丸山 田中 藤澤 宮入 園原）

「戦争の記憶をどう受け継いでいくか」をテーマに長野県護国神社、シベリア抑留慰靈碑、拓友の碑、松代大本營等、身近な戦争にまつわる場所を尋ねた。捕虜の問題や「バターン死の行進」等、戦争がいかに悲惨なものかを実感した。上原良司についても調べた。『ああ祖国よ恋人よ』を図書館に置いてもらい、多くの生徒に読んでもらえるよう呼びかけた。この研究成果を文化祭でも発表する予定だ。

（2）松本深志高校 （小林 中澤 望月）

1年生の平和教育で上原良司について学んだことをきっかけに、「戦争と平和」をテーマに探究を行うことにした。身近なゲームにも戦争を題材にした物があり、動画作成を通して、「人はなぜ戦争をするのか」「なぜ戦争は繰り返されるのか」を考えた。

また、若い人たちに戦争を知ってもらい、平和について考えて貰うために、子供を主人公にした戦争小説を創作して、小学生・中学生にも読んでもらえる作品を書いている。コンクールに応募する予定だ。

(3) 松本県ヶ丘高校 (滝沢 横澤 森田 和田)

「つむげ、わだつみのこえ」をテーマに探究活動を行った。広島・知覧・サイパン島・テニアン島等を訪れ、今も残る戦争の傷跡を次の世代に伝えたいと思い、「松本戦時中写真A I カラー化プロジェクト」を行った。カラー化することで戦争の記憶を未来へ紡ぐことができたと考える。

エンパシープロジェクトでは、人の話を「聞く」ことで、相手の立場に立って相手の感情や思考を理解しようと努め、争いのない世の中になると仮説を立て、研究している。探究カレッジでは上原良司の遺書に込めた思い等をみんなで意見を出し合った。

◆シンポジウム

司会 林直史 (松本第一高校)

高校生の探究発表について感想等お願いします。

安島太佳由氏 (戦跡カメラマン)

多くの戦跡の写真を撮ってきたが、若い人への継承が大事と考えており、今日のように高校生が自主的に戦争について考えている姿がうれしいことだ。

井上義和氏 (帝京大学教授)

専門は教育社会学。平和問題に関心を持ったのは映画「永遠のゼロ」が話題になり、特攻を題材にするはどうかと批判もあったが、特攻について研究してきた。映画「月光の夏」「あの花が咲く丘の上で、君とまた出会えたら」も参考になる。県ヶ丘のO B 山崎貴監督の「ゴジラー1.0」も戦争に関連した事柄が多く、興味深い作品だ。高校生が自主的に戦争について考える姿勢に感動した。

司会 林直史 (松本第一高校)

「月光の夏」は先日池田町の会でも上映され、神山征二郎監督の挨拶もあった。

松本第一高校 赤羽さん

改めて戦争の悲惨さを知った。自分で知り、考えることが大切だと思った。

松本第一高校 鮎澤さん

相手の立場に立って考えることが大切だと改めて感じた。

松本深志高校 望月さん

まずは「知ること」が大切。さらにそこからどう考えるかということが課題だ。

松本県ヶ丘高校 滝澤さん

このような会を通じて多くの人が戦争について考えるようになって欲しい。

松本第一高校 柳澤先生

二年の時沖縄へ修学旅行に行き、三年で今回の会でさらに戦争と平和の学習ができた。主権者教育も行ったが、生徒が自主的に積極的に参加・行動してくれ嬉しかった。

松本深志高校 白井先生

戦後80年もたつが、高校生が戦争に関心を持ち探究し、活動していることに感動した。90年のつどいの開催も期待する。

松本県ヶ丘高校 羽賀先生

自分たちの考えを自分たちの言葉で発表していることが素晴らしい。未来のことを考えることが、今の自分たちがどう生きていくべきか知ることになる。

井上義和氏

自由主義者・上原良司の言葉をじっくりと読んで、深く考えてみることも大切ではないか。

安島太佳由氏

否定的な考えを敢えてすることも大切ではないか。

◆ 閉会あいさつ (塩野英雄代表)

高校生が積極的に自主的に会を進めてもらい感謝している。慶應大学でも 80 周年の展示をしている。今後このような活動を少しづつでも紡いでいってもらいたい。中島博昭先生の本『ああ祖国よ恋人よ』を預かっていて希望者に配布する。所感の記述「国民の方々におねがいするものです」の気持ちを大切にしたい。本日は大変ありがとうございました。